
恋花火

鈴夜 音猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋花火

【Nコード】

N7953M

【作者名】

鈴夜 音猫

【あらすじ】

空に咲く大輪の花は、普段俺が気付かなかったことに気付かせてくれた。

空に咲く花は、今まで気付かなかつたものに気付かせてくれた。

空に咲く大輪の花がそれを見上げる人々を照らしている。
それと少しの時間差でやってくる激しい音に、体が震えた。

「綺麗……」

俺と並んで空を見上げるこいつは、俺の幼馴染み。

普段はこいつに女らしさなんて感じないのに、藍色の浴衣に身を包んだだけでこつも違うのか。

派手だけどこか儂い花に見とれるその姿に、不覚にも見とれてしまった。

いつも下ろしてる髪をあげてるせいで露になったうなじが何故か色っぽい。

「花火、綺麗だね！」

不意にこちらを向かれ、ぱっちり合った目を慌てて反らす。

俺の心臓は不自然なほど激しく鳴り出した。

「どっつしたの？」

俺の気持ちなんかこれっぽっちも分かってないこのバカは、ひよこつと俺の顔を覗き込んでくる。

「なんでもねえよ」

真っ赤になってるだろう顔を見られたくなくて、ついぶっきらぼうになっってしまう。

「ねえ」

「なんだ……よ……」

肩を強く叩かれ、ガバツと顔を上げると、頬に感じた柔らかな感触。
触。

驚く俺の目に移ったのは、頬を赤く染めた幼馴染みの笑顔。

その時打ち上がった花火と同時に、俺の恋も開花した。

【End】

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7953m/>

恋花火

2010年10月28日08時29分発行